

平成30年度 諫早市在宅医療・  
介護連携支援センター運営事業  
活動報告書

一般社団法人 諫早医師会  
諫早市在宅医療・介護連携支援センター

# 平成30年度 諫早市在宅医療・介護連携支援センター運営事業活動報告書

「諫早市在宅医療・介護連携支援センター」は、諫早市から一般社団法人諫早医師会が委託を受け平成30年8月に開設しました。

## 事業の目的

要介護者等が、住み慣れた地域で穏やかに在宅生活を過ごせるよう、地域の医療・介護の連携を推進するため、在宅医療と介護を結ぶ支援者として医療と介護事業者の連携をサポートすることを目的としています。

また、医療・介護関係者等のサービス提供者からの在宅医療に関する相談に対して、必要な情報提供、支援・調整に努めるものです。

## 1 業務・作業環境の整備等(開所準備期間中の業務)

8月1日の連携支援センター開所に向けて、業務に必要な備品・消耗品等の調達を行い、業務運営体制の整備を行った。

### 取組み内容

#### (1) 備品、消耗品、書籍等の調達管理

ア 事務用備品、事務用消耗品の購入及びパソコン等の賃貸借契約などを行い、業務環境を整備した。

イ ロゴマークの製作及びロゴマークを活用した開設チラシ、封筒等を作成した。

※「諫早市在宅医療・介護連携支援センター」の名称が

長く覚えにくいいため、親しみやすさをこめて、通称名称を「かけはしいさはや」とした。

この名称は、センターの役割が医療と介護の「かけはし」となること、また諫早市名所の「眼鏡橋」をモチーフに決定しています。)



在宅医療介護連携支援センター開設チラシ

### 開所式及び開設挨拶

平成30年8月1日 諫早市長、諫早市議会議長を来賓に招き、医師会主催の開所式を開催した。

また、開所前に諫早市長、3師会会長ほか包括支援センターなど関係機関に開設挨拶を行った。

### 成果と課題

ア 開所前に、関係機関等を訪問し、事業内容の説明ができたことは、顔の見える関係づくりの第一歩となった。

イ 今後も、施設等関係機関を訪問し、良好な関係を構築する必要がある。



開所式開催状況

## 2 従事者の対応能力向上に資する研修などの実施

### 取組み内容

- (1) 行政担当者による在宅医療・介護の基礎知識研修受講
- (2) 先進地視察
  - 6月29日 雲仙市在宅医療・介護連携サポートセンター（4月1日開所）
  - 7月12日 武蔵野市在宅医療介護連携支援室（行政担当、医師会理事、センター職員）
  - 7月13日 西東京市在宅療養連携支援センター（行政担当、センター職員）
  - 12月11日 大村市在宅医療サポートセンター
- (3) 研修会等参加状況

月日	場 所	内 容
8/18	文化会館	第14回諫早市地域ケア発表大会
8/18	看護センター	長崎県看護学会
9/8	看護センター	長崎県の地域包括ケアシステムにおける在宅医療・介護連携の取組
11/22	諫早図書館	介護予防と生活支援の語らん場（諫小校区）
12/22	文化会館	認知症講演会
2/6	長崎市	入退院情報共有シートに関する県内情報交換会
2/7	文化会館	介護予防・生活支援の地域フォーラム
3/13	諫早総合病院	「諫早心不全地域連携クリティカルパス」説明会

### 成果と課題

- ア 先進地視察にて医師会・行政との連携及び業務内容について具体的に知ることができ今後の取組みの参考となった。
- イ 各種研修会、講演会へ参加し医療介護連携の課題等を再認識し業務遂行の参考となった。

## 3 地域包括支援センターとの連携

地域包括ケアシステムによる医療・介護・予防・住まい・生活支援の一体的な提供を図る地域包括支援センターと連携し、在宅療養に関する様々な情報の共有に努めた。

### 取組み内容

- ア 各地域包括支援センターへ開所挨拶
- イ 中央部包括…地域ケア会議への参加  
「中央部地域における医療介護連携の現状把握と課題分析」
- ウ 東部包括…医療介護関係者研修会での連携
- エ 南部包括…市民講演会での連携について協力・相談
- オ 西部包括…社会資源等の情報共有
- カ 北部包括…医師会センター運営会議で情報共有



地域ケア会議の様子

### 成果と課題

- ア 中央部包括支援センターとは同フロアで開設前後より様々な相談を行っている。中央部包括支援センターと連携し、在宅療養に関する情報の共有に努めた。
- イ 各包括支援センターの圏域ごとの特徴や課題などを把握し、医療・介護に関する情報共有を具体化していく必要がある。

#### 4 在宅医療に関する専門相談

居宅介護支援事業所、かかりつけ医、訪問看護ステーション、地域包括支援センター等の医療・介護サービス提供者及び関係機関から在宅医療等に関する相談には、電話や窓口での情報提供や助言を基本に、必要に応じて医療や介護事業所等の関係機関との調整に努めた。

相談内容		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談区分	合計	6	2	9	3	2	2	2	3	29
在宅療養支援	①医療等に関する相談	1	0	2	2	1	0	1	0	7
	②介護等に関する相談	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	③短期入院・入所に関する相談	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	④看取りに関する相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0
転・退院支援	⑤医療情報に関する相談	1	0	4	0	0	2	0	2	9
	⑥介護情報に関する相談	1	0	2	0	0	0	0	0	3
その他	⑦苦情・クレーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	⑧その他	3	2	0	1	1	0	0	1	8
相談者		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談者区分	合計	5	2	9	3	2	2	2	3	28
ケアマネ	居宅介護支援事業所	2	0	5	0	0	0	1	3	11
医療関係者	病院、医院	1	0	4	1	1	2	0	0	9
	診療所（歯科含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	薬局	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	訪問看護ステーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護事業所	介護事業所等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
関係機関等	地域包括支援センター	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	行政	2	0	0	0	0	0	1	0	3
	市民	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	1	0	0	1	0	0	0	2
※相談内容と相談者の合計件数は、複数の相談があるため一致しない。										

#### 取組み内容

- ア 在宅医療に関する専門相談に対応するため、在宅医療に欠くことのできない往診医（医師会、歯科医師会、薬剤師会）、訪問看護ステーション及び居宅介護支援事業所等関係事業所の情報を調査・収集し、リスト化した。
- イ 収集した情報をもとに、在宅療養支援や転・退院等の相談について、市内をはじめ、市外・県外からの相談に対応した。
- ウ 相談内容や諫早市の在宅医療・介護の現状を踏まえて、相談対応マニュアルを作成した。
- エ 一般的な相談については、電話又は窓口で対応するとともに地域包括支援センターと連携するなど、適宜状況に応じた対応に努めた。

#### 成果と課題

- ア 相談件数29件（情報提供4件を含む）具体的な相談に関しては、担当理事へ報告・相談し対応することが出来た。
- イ レスパイト入院受け入れ、認知症患者への対応、在宅患者の緊急入院など在宅医療の後方支援体制に向けた医療機関との意見交換が必要となる。
- ウ 在宅医療・介護の体制整備の充実のため、行政や医師会をはじめとした関係機関等との協議が必要である。
- エ 訪問や研修会を重ねて、当センターを周知していく必要がある。

資料① 相談対応マニュアル、相談受付票、相談実績表

## 5 退院調整への支援

在宅医療・介護連携に向けた医療機関からの退院調整が困難な場合の支援は、困難となっている原因とそれを解消するため、医師、ソーシャルワーカー等、居宅介護支援事業者及び訪問看護事業者等と連携を図り、退院カンファレンスを助言した。

### 取組み内容

ケアマネジャーから退院調整の相談があり、早期のカンファレンス実施を病院へ提案するよう助言した。

### 成果と課題

- ア 「諫早市入退院支援連携ガイドブック」の活用により、医療・介護関係者間の連携がとりやすくなっており、当センターまでの相談には至らなかったと思われる。
- イ 主に居宅介護支援事業所等の訪問を実施し、介護事業者の意見を集約した。今後は病院、医療連携室の訪問調査を行い医療関係者からの意見の収集が必要となる。

## 6 「諫早市入退院支援連携ガイドブック」の周知・検証及び情報更新

諫早市入退院支援ガイドブック（以下「ガイドブック」という。）については、市高齢介護課と連携し、医療機関および介護事業所等への周知に取り組んだ。

### 取組み内容

- ア 居宅介護支援事業所調査時に、「ガイドブック」の使用状況や効果の聞き取りを行った。
- イ 市内の病院、有床診療所と「ガイドブック」の協力医療機関の状況を把握した。
- ウ 「ガイドブック」は当センターのホームページに、市ホームページとのリンクさせ周知を図った  
また、健康福祉ガイドも同様にリンクしている。

### 成果と課題

- ア 「ガイドブック」の活用により、医療・介護関係者間の連携がとりやすくなっているとの意見が多くあった。
- イ 「ガイドブック」は、検証のため検討会メンバーによる定期的な協議が今後も必要となる。
- ウ 市内全ての病院、有床診療所や隣接する市外病院が、協力医療機関となれるよう市高齢介護課と連携し調整する必要がある。





## 7 在宅医療資源情報の把握及び情報整理

県の情報等を参考に、地域の医療機関及び介護事業所等の所在地などを把握し、リストの作成に務め、在宅医療資源情報は、当センターのホームページに掲載することができた。

### 取組み内容

- ア 訪問看護ステーション（15カ所）、居宅介護支援事業所（56カ所）の訪問調査を実施し、リストを作成した。
- イ 居宅介護支援事業所の訪問調査結果、分類・カテゴリー化し課題を抽出した。
- ウ 県長寿社会課「高齢者施設・介護事業所等に関する情報」を元に、介護関連の14事業所を「在宅介護サービス」として包括支援センター圏域毎に分類し、ホームページに掲載した。
- エ 高齢者施設として、介護老人福祉施設、有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅など9事業所の入居要件等をホームページに掲載した。
- オ 歯科医師会、薬剤師会の協力のもと、訪問歯科医師、訪問薬局の一覧表の提供を受けホームページに掲載した。
- カ 訪問診療及び対応可能処置を含めた訪問可能な医療機関の一覧表を作成するため、医師会事務局の協力を得て「在宅医療に関する医療情報アンケート調査」を実施した。

地域資源情報一覧掲載件数

資料②歯科、資料③薬局、資料④介護サービス事業所

歯科医院	38件	訪問看護ステーション	14件
薬局	45件	訪問入浴	1件
通所リハビリテーション	20件	小規模多機能型居宅介護	10件
訪問リハビリテーション	2件	訪問介護事業所	44件
ディサービス事業所	45件	福祉用具販売	12件
地域密着型ディサービス事業所	31件	福祉用具レンタル	13件
認知症対応型ディサービス事業所	7件	訪問巡回	1件
ショートステイ	15件	居宅介護支援事業所	59件
医療型ショートステイ	14件		

高齢者施設一覧掲載件数

資料⑤高齢者施設

介護医療型医療施設	8件	有料老人ホーム	12件
介護老人保健施設	4件	介護医療院	1件
介護老人福祉施設	8件	軽費老人ホーム	4件
地域密着型介護老人福祉施設	6件	認知症対応型共同生活介護	23件
サービス付き高齢者向け住宅	16件		

### 成果と課題

- ア ホームページに医療・介護の情報を掲載できたことで、情報が集約され関係者が利用しやすくなるを考える。
- イ 訪問看護ステーションを一覧表としたことで、特徴や対応可能処置が見やすくなった。
- ウ 県長寿社会課のデータを半年毎に更新し、最新情報をホームページに掲載していく。



平成31年2月27日  
ホームページを開設しました

## 8 在宅医療・介護連携普及啓発

### (1)在宅医療・介護関係者研修会の開催

市高齢介護課と連携し、地域の医療従事者及び介護専門職等を対象とした研修会を開催し、相互に知識を深めるとともに相互連携の円滑化に努めた。

#### 取組み内容

平成30年度 在宅医療・介護関係者研修会を開催した  
日 時 平成31年2月22日 午後7時から午後9時まで  
場 所 諫早市高来会館3階（高来支所）  
対象者 東部包括支援センター圏域の医療・介護関係者  
参加者 44名  
テーマ いっしょに話ませんか？

講 師 医療法人 藤山循環器内科医院 藤山友樹医師  
講演内容 「在宅医療について」～当院での訪問診療の現状と課題～  
アドバイザー 美南の丘クリニック 松尾 先生  
なかむら歯科医院 中村 先生  
むつごろう薬局 高崎 先生

#### 内 容

講演の後、同職種間でグループワークを行い悩み・課題の共有と解決策を検討した。歯科医師、訪問薬局よりアドバイザーとしてグループワークにも参加して頂いた。



#### 成果と課題

医師会、歯科医師会、薬剤師会及び高齢介護課の協力をいただき研修会を開催できたことは、今後の在宅医療に向けた医療機関（3師会）の連携がさらに図られたと考える。

#### 【アンケート結果】

- ア 医師他医療関係者と介護関係者が一同に会し情報共有できたことが有意義であったとの評価を得た。また、同職種間でのグループワークだったので、悩み・課題や解決方法など共感できたとの意見が多かった。
- イ 顔の見える関係づくりの場、地域の現状や多職種の課題等を知る場として非常に有効または有効との回答を9割以上の参加者から得られた。
- ウ グループワークの時間配分や同職種間だけでなく異職種間でのグループワークができないか検討する必要がある。

#### 資料⑥在宅医療・介護関係者研修会報告書ほか

在宅医療・介護関係者研修会開催状況



## (2) 平成30年度 在宅医療・介護に関する市民講演会の開催

市高齢介護課と連携し、地域住民を対象とした講演会等を開催し、在宅医療・介護連携の普及啓発に務めた。



市民講演会開催状況



### 取組み内容

日時	平成31年3月8日 午後7時から9時まで	市民講演会チラシ
場所	森山公民館 2階講堂	
対象者	森山地域にお住いの皆さん	
テーマ	在宅医療ってななに～あなたを支える医療と介護～	
講師・講演	高齢介護課 竹下様 「ご存知ですか 介護保険」 森の里福祉会 菊池様 「ケアマネジャーの役割」 美南の丘クリニック 松尾先生 「在宅訪問から看取りまで」 たなか歯科医院 田中先生 「訪問歯科診療 こんなことをしています」 パサージュしらぬひ薬局 宮崎先生 「薬剤師が訪問します」	

参加者 114名

内容 市民の皆さんに「在宅医療」について、理解を深めてもらうことを目的に開催した。行政からは、医療保険証と介護保険証の違いや介護保険の申請から認定までの手続きについて、ケアマネジャーからは在宅医療と介護サービス提供について、また、在宅医療の現状について3人の先生方からは、在宅医療を行うため「かかりつけ医」の必要性や在宅での歯科診療や薬剤管理の指導内容など、在宅医療の現状について、講演を頂いた。

### 成果と課題

- ア 市民の皆さんに「在宅医療」について、いざという時に困らないよう理解を深めてもらうこと及び相談できる場所（包括支援センター等）の周知が図られた。
- イ 114名の参加があり、アンケートには率直なご意見を頂いた。回収率は74%
- ウ 自治会長、民生委員の方々の協力を得、地区回覧板、地域広報誌での周知により多くの方の参加者につながった。



市民講演会開催状況

- エ 参加者からは、「困った時の相談窓口がわかり安心した」や「身近なテーマで参考になった」などの多くのご意見が寄せられた。
- オ 市民向けに「生活を支える医療と介護」として在宅生活に必要な資源をイラストを使って分かりやすく作成し、資料として配布した。



**【アンケート結果】**

**アンケートは84人の方から回答がありました**

- ア 「あなた自身が介護が必要になった時どのようにしたいですか。」の質問では、自宅で過ごしたいが24人、病院や施設に入りたいが51人、その他・回答なしが8人でした。
  - イ 「あなたは家族が介護が必要になった時どのようにしたいですか。」の質問では、自宅で過ごさせたいが25人、病院や施設に入りたいが46人、その他・回答なしが15人でした。
  - ウ 「本日の講演は参考になりましたか。」の質問では、とても参考になった・参考になったが69人、あまり参考にならなかったが1人、回答なしが14人でした。
- それぞれの質問にその理由などを尋ね、率直なご意見がありました。

資料⑦ 市民講演会報告書ほか

**(3) 在宅医療・介護連携普及啓発チラシ等の作成・配布等**

在宅医療・介護連携に関する理解を深めるためのチラシを作成し、周知に努めた。

- ア 当センターのホームページへの掲載や窓口で配布している
- イ 市民講演会などで配布し周知に努めた

資料⑧ 普及啓発チラシ

普及啓発チラシ